

発掘調査報告書

書名	年度	内容	頁数	重量	厚み	定価	版形	備考
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第1集 「御用地遺跡」	平成8年	市域北部の縄文晩期・古墳時代後期～奈良時代・中世の集落址の調査報告書。	230頁	1030g	1.6cm	2,000円	A4縦	
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第2集 「小藪遺跡・東端貝塚・寺下貝塚」	平成9年	縄文時代晩期・古墳時代後期(小藪遺跡)、縄文時代晩期・中世の貝塚(東端貝塚、寺下貝塚)の調査報告書。	102頁	455g	0.8cm	1,100円	A4縦	
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第3集 「桜林遺跡」	平成9年	二子古墳の南に接する部分の調査報告書。弥生時代後期～古墳時代前期の土器集積、古代の墨書土器、祭祀関連遺物などが出土。	203頁	800g	1.2cm	1,800円	A4縦	
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第4集 「本神遺跡」	平成10年	碧海台地東縁部に作られた弥生時代後期の環壕集落址。環壕内より多量の欠山式土器が出土。	152頁	650g	1.2cm	1,600円	A4縦	
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第5集 「石川丈山邸址」	平成10年	江戸初期の文人、石川丈山が幼少期に過ごしたと伝えられている中世城館跡の調査報告書。	92頁	435g	0.7cm	1,200円	A4縦	
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第6集 「中狭間遺跡」	平成11年	古井遺跡群の一角に位置する弥生時代後期～古墳時代前期を中心とする遺跡で、多数の外来系土器が出土。	206頁	770g	1.3cm	2,600円	A4縦	
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第7集 「安祥城址寒池遺跡 郷裏遺跡」	平成11年	市内3遺跡の緊急発掘調査の報告書。中世城館址の安祥城址、中世集落址の寒池遺跡、別郷廃寺に関連すると思われる郷裏遺跡を収録。	76頁	360g	0.6cm	1,100円	A4縦	完売
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第8集 「釈迦山遺跡」	平成12年	本神遺跡に隣接する遺跡。弥生時代後期を中心とした土器のほか、多数の木製品が出土した。	186頁	800g	1.4cm	2,000円	A4縦	
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第9集 「古井堤遺跡 二子遺跡」	平成13年	いずれも古井遺跡群の一角に位置する遺跡で、弥生時代中期～古墳時代前期の遺物を中心にして出土。	201頁	690g	1.2cm	1,800円	A4縦	
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第10集 「鹿乗川流域遺跡群」	平成13年	鹿乗川流域遺跡群内において行われる県営ほ場整備事業に先立つ範囲確認調査の報告書。弥生時代後期～古墳時代前期の土器を中心に出土。	112頁	500g	0.9cm	1,600円	A4縦	
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第11集 「宮下遺跡」	平成14年	古井遺跡群のひとつである弥生時代中期から古墳時代前期の遺跡。多数の土器とともに、木製品、墨書土器、人面文土器片が出土。	140頁	615g	1.1cm	1,600円	A4縦	
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第12集 「寺領廃寺」	平成16年	奈良時代後期～平安時代後期にかけての古代寺院の発掘調査報告書。金堂跡・講堂跡・塔跡と共に多くの瓦片が出土。	208頁	920g	1.5cm	1,700円	A4縦	

安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第13集 「鹿乗川流域遺跡群Ⅱ」	平成16年	鹿乗川流域遺跡群内における県営ほ場整備事業に伴う発掘調査の中で、平成10年度調査分の報告書。弥生後期を中心として多くの土器片が出土。	242頁	1030g	1.7cm	2,000円	A4縦	
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第14集 「姫下遺跡 大畑遺跡 長先遺跡」	平成16年	市内遺跡の緊急調査報告書。大畑遺跡においては、灰釉陶器と共に鍛冶遺構と思われる土壌や鉄滓が出土。	69頁	350g	0.6cm	1,000円	A4縦	
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第15集 「鹿乗川流域遺跡群Ⅲ」	平成17年	鹿乗川流域遺跡群内における県営ほ場整備事業に伴う発掘調査の中で、平成10年度調査分の報告書。弥生中期～後期を中心として多くの土器片が出土。	410頁	1410g	2.1cm	4,000円	A4縦	
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第16集 「亀塚遺跡」	平成17年	鹿乗川流域遺跡群の南方の一角を占める亀塚遺跡の1次と3次の調査報告書。桜皮巻土器(県指定文化財)など弥生期から近世にかけて多くの遺構、遺物を発見。	116頁	530g	0.9cm	1,600円	A4縦	
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第17集 「鹿乗川流域遺跡群Ⅳ」	平成17年	平成10年度に実施した鹿乗川流域遺跡群内における県営ほ場整備事業に伴う発掘調査報告の完結をみる。弥生時代中期から近世にかけて多くの遺構、遺物を発見。	246頁	1090g	1.7cm	2,300円	A4縦	
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第18集 「亀塚遺跡Ⅱ」	平成18年	1977年に行われた第2次調査の報告書。全国的にも有名な人面文土器(県指定文化財)や南関東系土器などの外来系土器が多く出土。	158頁	710g	1.2cm	1,600円	A4縦	完売
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第19集 「史跡 二子古墳」	平成18年	矢作川流域で2番目の規模をもつ国指定史跡・二子古墳の範囲確認調査報告書。前方後方墳であり、調査の結果この地域でも最古の古墳になる可能性が高まった。	182頁	850g		1,700円	A4縦	完売
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第20集 「野辺遺跡」	平成19年	1972～1973年に行われた調査。弥生後期、古墳後期～古代の溝が検出され多量の土器等が出土。弥生前期の伊勢系の垂流速賀川式土器なども出土している。	118頁	544g	0.9cm	1,500円	A4縦	
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第21集 「鹿乗川流域遺跡群Ⅴ」	平成19年	平成11年度に実施した県営ほ場整備事業に伴う発掘調査報告書。弥生時代中期～古墳時代中期の遺構・遺物を検出。日本で最古級とされる横櫛も出土している。	490頁	2050g	3.2cm	3,500円	A4縦	
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第22集 「堀内貝塚」	平成20年	昭和2年の調査を皮切りに5次にわたる調査が行われ、それらの成果全てを報告。特に平成7～8年に行われた5次調査では縄文時代晩期の墓域が確認され、東海地方の墓制研究に必携の報告書。	456頁	1560g	2.3cm	3,000円	A4縦	

安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第23集「鹿乗川流域遺跡群VI」	平成20年	平成12年度に実施した県営ほ場整備事業に伴う発掘調査報告。弥生時代後期～古代にかけての多数の遺構・遺物を検出。	336頁	1180g	1.8cm	2,000円	A4縦
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第24集「山崎遺跡 山崎城址」	平成21年	昭和41・42年に実施された山崎城址の範囲にある山崎遺跡の発掘調査と、昭和43年に大半が滅失した山崎城址の測量調査を再報告。	94頁	450g	0.8cm	1,200円	A4縦
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第25集「別郷廃寺 河原遺跡・向田遺跡」	平成21年	市内3遺跡の平成12年度に実施した試掘調査の報告書。古代寺院跡である別郷廃寺、古代の墨書土器が出土した河原遺跡、鹿乗川流域で新規発見された向田遺跡を収録。	70頁	350g	0.6cm	1,000円	A4縦
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第26集「鹿乗川流域遺跡VII」	平成22年	平成13・14年度県営ほ場整備事業による調査報告書。これまでの鹿乗川流域遺跡群の調査成果から時期別の集落動態を明らかにした一冊、必見です。	423頁	1520g	2.3cm	2,400円	A4縦
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第27集「史跡 姫小川古墳」	平成22年	国指定史跡姫小川古墳の墳丘範囲確認調査。後円部には幅10m前後の周溝が巡り、墳丘規模も65m程度の前方後円墳と判明しました。三河における前期古墳を考えるには必読書です。	151頁	622g	0.9cm	1,500円	A4縦
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第28集「惣作遺跡」	平成25年	平成19年度に実施した発掘調査の報告書。弥生時代～江戸時代にかけて多数の遺構・遺物を検出。古代の墨書土器も出土している。	225頁	914g	1.4cm	1400円	A4縦
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第29集「本證寺境内地」	平成25年	本證寺は二重の堀に囲まれた「城郭伽藍」として知られ、現在も内堀・外堀・土塁の一部が現存する。本書では、外堀の範囲確認調査など平成9～22年度に実施した埋蔵文化財調査成果を収録。	217頁	874g	1.3cm	1400円	A4縦
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第30集「彼岸田遺跡」	平成25年	鹿乗川流域遺跡群を形成する遺跡で、平成15年度の調査。自然流路から、弥生時代後期～古代の遺物を検出。弥生時代の鳥形土器や、古代の墨書土器99点、木製大足などが出土した。	135頁	553g	0.9cm	1200円	A4縦
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第31集「宮下遺跡II」	平成25年	平成14年度調査。弥生時代後期の土坑から外来系土器や鳥形土器が出土。また古墳時代～古代の居住域や、古代の河道を検出。河道からは大量の土器が出土した。	119頁	482g	0.8cm	1100円	A4縦

安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第32集「塚下遺跡」	平成26年	平成9・12年度に行われた鹿乗川流域遺跡群を形成する遺跡の調査報告。遺跡は弥生時代後期から古墳時代前期を中心とする。溝の出土遺物は、他遺跡と同様に外来系土器を含みつつ在地の土器の割合が高い。その他、井戸状遺構も発見されている。	265頁	996g	1.5cm	2000円	A4縦
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第33集「本證寺境内地Ⅱ」	平成26年	平成23年度に行われた本證寺境内地に関する調査報告である。主に戦国期から近世の遺構・遺物が確認されている。「百姓家」とされる範囲において居住域と鍛冶関連遺構が検出され、戦国期から近代の遺構変遷が窺えた。また、戦国期の外堀の位置・形状を把握した。	283頁	1150g	1.8cm	2000円	A4縦
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第34集「塔之元遺跡 大畑遺跡Ⅱ」	平成27年	桜井町塔之元遺跡、藤井町大畑遺跡の調査を収録。塔之元遺跡は古代の竪穴建物2棟を確認し、古代から中世の集落遺跡であることが確認された。大畑遺跡は古代から中世の遺構形成が読み取れ、特に古代の状況は過去の調査(第14集収録)と合致する成果を得た。	133頁	553g	0.8cm	1400円	A4縦
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第35集「姫塚古墳 姫塚遺跡 崖古墳 姫遺跡」	平成27年	平成17年度より始まる姫小川町姫塚古墳周辺一帯の調査報告。姫塚古墳は幅7m以上、深さ1m弱の周溝と想定される溝を発見、25～28m前後の方墳に復原された。姫塚遺跡は平安時代、鎌倉時代、室町時代から戦国時代の複合遺跡で、特に鎌倉時代に遺構形成が活発していることが判明した。	163頁	693g	1.1cm	1900円	A4縦
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第36集「平成24年度市内遺跡調査報告」	平成27年	平成24年度の発掘調査、確認試掘調査、工事立会調査の大半を収録した一冊。野寺町大藪畔遺跡では地下式坑・火葬施設が発見され、隣接する本證寺境内との繋がりが想定される。また、小川町岩根前遺跡では奈良時代の竪穴建物・掘立柱建物を検出、また平安時代から室町時代まで遺構形成を確認。	177頁	710g	1.1cm	1600円	A4縦
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第37集「平成5年度～13年度市内遺跡調査報告」	平成28年	平成5年度～13年度の発掘調査、確認試掘調査、工事立会調査の成果を収録した一冊。平成13年度の小川志茂城跡発掘調査では、曲輪を東西に区画した可能性の高い溝や、16世紀代を中心とした遺物を多数確認した。 安城市埋蔵文化財分布地図の最新版(平成28年3月現在)も巻末に収録。	171頁	674g	1.1cm	1800円	A4縦

安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第38集「平成25年度市内遺跡調査報告」	平成28年	平成25年度の発掘調査、確認試掘調査、工事立会調査の大半を収録した一冊。今村城跡発掘調査では、室町時代・戦国期から江戸時代初頭・江戸時代後期・明治期から戦前の4時期にわたる遺構変遷を概観することができた。本證寺境内外堀確認調査では、北東部分の角を検出し、寺内範囲が明らかとなった。 安城市埋蔵文化財分布地図の最新版(平成28年3月現在)も巻末に収録。	177頁	700 g	1 cm	1600円	A4縦
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第39集「岩根城跡 安城古城跡」	平成29年	小川町岩根城跡、安城町古城跡の複数次にわたる発掘調査の報告。岩根城跡では、第4次調査で城館の堀跡を検出した。安城古城跡では、第1次調査で城館と自然地形を区画する溝を確認、第2次調査で土塁の調査を実施した。	148頁	614 g	1 cm	1400円	A4縦
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第40集「平成26年度市内遺跡調査報告」	平成29年	平成26年度の発掘調査、確認試掘調査、工事立合調査の大半を収録した一冊。発掘調査では、宮下南遺跡、前畑遺跡、藤井城遺跡などを収録。宮下南遺跡では、古墳時代前期の溝が確認され、溝内から土器編年の基準となる良好な資料群が得られた。	182頁	729 g	1.1 cm	1800円	A4縦
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第41集「神ノ木遺跡調査報告」第1分冊 第2分冊	平成29年	神ノ木遺跡は自然堤防上に立地し、弥生時代後期には方形周溝墓からなる墓域を形成し、古墳時代前期から中期には新たに居住域が展開する。古代の建物は希薄だが、鎌倉～室町時代には遺物量が増加し15世紀後半に最盛期を迎える。広域流通品や古瀬戸の優品が多く出土し、屋敷地が存在したと推定された。しかし中世の遺物は近世の溝から出土し、確実な遺構は井戸・土抗墓等のみである。大窯期には陶器類の減少と土師器煮炊具の増加がみられ、その様相の変化は安城城の動向と何らかの関わりがあると考えられる。その後火葬施設の散在する時期を経て、近世～近代には灌漑用の溝が掘削され、島畑及び揚田として利用された。近世末期～近代初頭には溝が暗渠化された。	642頁	2634 g	4.1 cm	6500円	A4縦

安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第42集「高畑遺跡」	令和元年	平成16年から平成30年までの8次にわたる本発掘調査と試掘調査、立会調査の成果報告。縄文時代、古墳時代、古代、中世、近世、近代の遺構・遺物を確認した。中心となるのは古代と中世である。古代においては、竪穴建物跡を複数検出した。 一連の調査により、長期間にわたり生活痕跡が認められる集落であったことが確認できた。	231頁	914 g	1.4 cm	2300円	A4縦	
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第43集「平成27・28年度市内遺跡報告 北加美遺跡 長先遺跡Ⅱ」	令和元年	平成27・28年度に行った安城市内の遺跡調査の報告。本発掘調査は、北加美遺跡と長先遺跡を収録した。北加美遺跡では、室町時代から近世の遺構・遺物を確認した。溝状遺構、火葬施設、井戸などがあり、建物を同位置で何度も建替えて生活した様子が窺えた。 長先遺跡では、台地端部に位置する方形周溝墓群を確認した。周溝からは、古井式最古期に位置づけられる土器も出土し、西三河の弥生土器編年に資する良好な資料群を得ることができた。	250頁	969 g	1.5 cm	2100円	A4縦	
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第44集「安城市西鹿乗地区の遺跡 上遺跡」	令和3年	平成14～15年度、既知の上条遺跡群と鹿乗川流域遺跡群の間に広がる沖積低地で実施した試掘調査と、上遺跡発掘調査の報告。これらの試掘調査結果から、上遺跡、屋下遺跡、万五郎遺跡、新造遺跡を新規登録した。上遺跡の発掘調査では、弥生中期から後期、古墳時代前期前半・後半の良好な資料を含む自然流路を確認した。被籠状突帯壺や韓式系土器等が出土した。	267頁	1029 g	1.6 cm	3100円	A4縦	
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第45集「平成29年度市内遺跡調査報告 天神遺跡」	令和3年	平成29年度に実施した、試掘・確認調査および天神遺跡発掘調査の報告。試掘・確認調査のうち、塚越古墳確認調査では円筒埴輪や鉄製品が出土した。天神遺跡発掘調査では、古墳時代から室町時代の遺構・遺物が高密度で確認された。	155頁	624 g	1 cm	2600円	A4縦	
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第46集「平成30・31(令和元)年度市内遺跡調査報告 山伏塚古墳」	令和3年	平成30・31(令和元)年度に行った市内遺跡調査の報告。確認・試掘調査は53件の概要、本発掘調査は、山伏塚古墳を収録。山伏塚古墳は古墳本体ではない、近隣地での調査を実施した。山伏塚古墳の確認調査では、条痕文土器を含む溝を検出したが、本発掘調査では近現代の攪乱が多く検出された。	129頁	527 g	0.9 cm	2600円	A4縦	

安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第47集「史跡 本證寺境内」	令和3年	第33集につづき、平成24～30年度に実施した第15～18次調査の成果を収録。本證寺境内地から平成27年度に国指定史跡となり史跡 本證寺境内とした。これまでの調査から、主な遺構・遺物は戦国期(16世紀前葉から中葉)、江戸時代後期(18世紀後葉から19世紀中葉)に大きく分かれることが判明している。今回は、第15・16次調査で外堀の位置を詳細に把握したこと、第18次調査で外堀の一部が戦国期と江戸時代後期で異なる位置に掘られたことが新発見として挙げられる。	261頁	1048 g	1.5 cm	3300円	A4縦	
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第48集「安城市西鹿乗地区の遺跡Ⅱ 福地遺跡」	令和4年	平成15～16年度、既知の上条遺跡群とその周辺の沖積低地で実施した試掘調査と、福地遺跡発掘調査の報告。ほ場整備のほか、市道整備など周辺工事の派生を受けて確認調査を広げた結果、福地遺跡を新規登録した。福地遺跡では、弥生時代終末期から古墳時代中期に集落や自然流路が展開していたことが判明した。変わって古代から中世には畦畔や耕作溝が多数見られ、生産域となったことが確認された。	229頁	882 g	1.4 cm	2900円	A4縦	
安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第49集「平成14～17年度市内遺跡調査報告 寺下貝塚Ⅱ 五反田遺跡 山ノ寺遺跡」	令和4年	平成14～17年度に行った市内遺跡調査の報告。本発掘調査は、寺下貝塚Ⅱ、五反田遺跡、山ノ寺遺跡を収録。寺下遺跡では、溝やピットのほか混貝土層を確認。油ヶ淵周辺の現存する貝塚と同様に、中世から近世にかけて土地利用が活発化する時期の一端を知り得た。五反田遺跡では、弥生時代から中世における散発的で乏しい土地利用は、鹿乗川流域における沖積低地の様相を示しており、沖積地と微高地の土地利用を比較する上で貴重な事例となった。山ノ寺遺跡では、古代と戦国期の遺物が比較的多く出土。城向遺跡や桜井城跡と同一時期の集落の存在が想定される。	211頁	799 g	1.4 cm	2200円	A4縦	

<p>安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第51集「令和2年度市内遺跡調査報告保科正直邸跡 北加美遺跡Ⅱ」</p>	<p>令和5年</p>	<p>令和2年度に行った市内遺跡調査の報告。確認・試掘調査は25件の概要、本発掘調査は、保科正直邸跡と北加美遺跡Ⅱを収録。保科正直邸跡は、屋敷を区画した可能性が高い戦国期の溝状遺構を確認した。北加美遺跡Ⅱは、第43集で収録した第1次調査の南での調査で、400を超える遺構と古墳時代、古代、中世から近世の遺物を確認した。とくに溝状遺構からは、多くの中世遺物が出土し、その中に銅製菊花小皿も含まれていた。</p>	<p>183頁</p>	<p>722g</p>	<p>1.1cm</p>	<p>3200円</p>	<p>A4縦</p>	
--	-------------	--	-------------	-------------	--------------	--------------	------------	--